

トーク & 納得セッション

【自律改善】

へなちょこ運営役 HBA 安達 賢二
素敵なアドバイザーさん デンソークリエイト 竹下 千晶さん

改善の変化

現在

1949
日本近代的
品質管理開始

1970

1990

2010

QC

TQC: 品質・全員参画・改善

TQM: 企業目的達成
への貢献

【TQMの特徴】
品質の意義・総合的・
目的指向・継続的・全社
的・科学的・顧客志向・

改善

ISO9000:
QS → QMS

顧客満足向上をも目指す
品質保証能力の適合性

プロセス
改善

SW-CMM → CMMI

プロセスモデルに
基づく改善
適合性審査・アセスメント
による改善

2002~
システムズアプ
ローチ併用型改善
トライアル

2005
プロセスモデル&
システムズアプ
ローチ&なぜな
ぜ&併用型改善

2006~
システムズ
アローチ
型業務改善

SaPID®ができるまでの取り組み

SaPID®

2009

2011.7
SPINA3CH
Ver1.0

自律
改善

自律改善を促進する改善手法SaPIDの全体像

STAGE0

ビジネス要件
共有

STEP0

ビジネスゴール・成果状況／テーマ共有

STAGE1

現状
把握

STEP1

問題洗い出し・
引き出し

STEP2

事実確認・
要素精査

STEP3

問題分析・
構造化

STAGE3

改善の
実行

STEP7

改善計画
立案・共有

STEP8

改善トライア
ル・評価&FB

STEP9

全体適用・
評価&FB

STAGE2

改善の
検討

STEP4

改善ターゲット
検討・特定

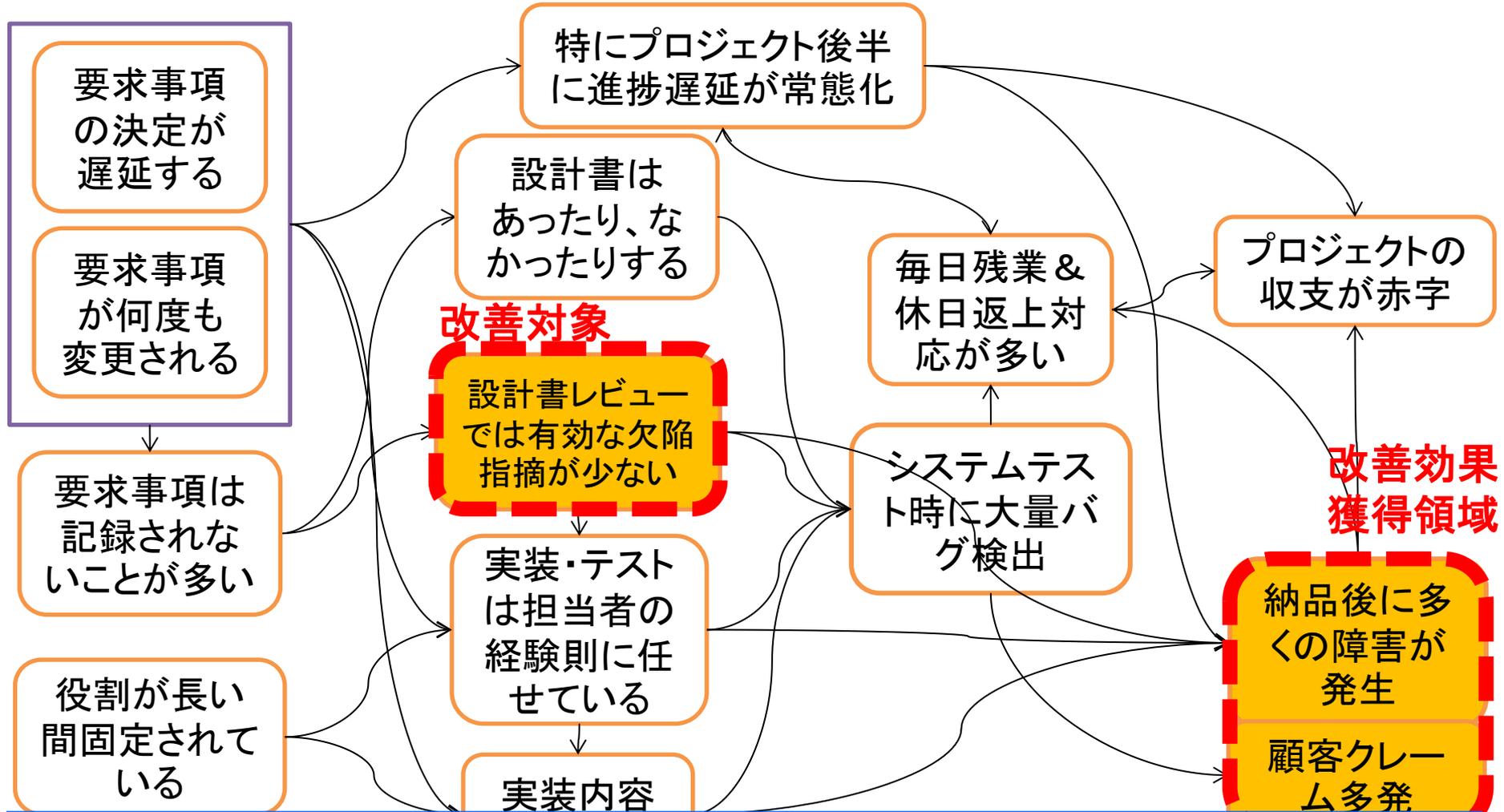
STEP5

改善手段
検討・決定

STEP6

改善目標
検討・決定

SaPIDの例 STEP4: 改善ターゲット検討・特定



★Point

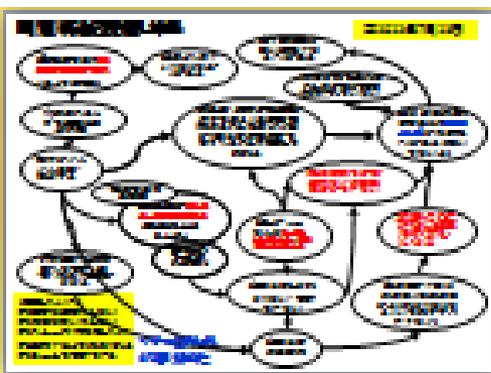
改善効果を獲得したい問題領域を特定し、制約条件の中で自ら改善可能で費用対効果が最大となる改善対象要素を見抜く⇒STEP5との相互検討で調整

SPINA3CH自律改善メソッド

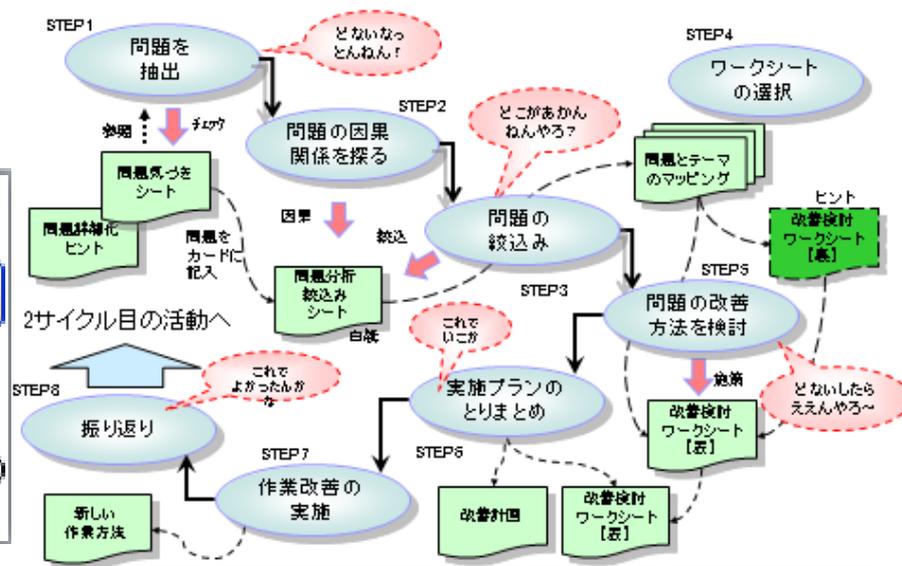
現場自らが感じている問題事項をベースに問題構造を作成把握し、その内容から改善すべき領域・要因を特定、**SPEAK-IPA版からの改善手段導出**を経てほしい結果・成果を獲得する課題・問題解決型プロセス改善方法論の一つ。

IPA/SECプロセス改善WG-NPT1により2011.7.7発行→2013.3.26改訂

問題構造



改善対象と解決手段



→当事者の問題意識に基づくプロセス改善手法
「SPINA3CH自律改善メソッド」の改訂

http://sec.ipa.go.jp/reports/20130326_3.html



参考書籍: SEC BOOKS
プロセス改善ナビゲーションガイド
～自律改善編～

今日のワークの内容

STEP1: 自律的な改善を阻む要因の明確化
+ 要因の発生or存在個所の設定

STEP2: 模造紙上に要因を割当て
→各要因の内容と全体像の確認

STEP3: 時間があれば簡易に構造分析

STEP4: もっとも改善すべき要因の投票

STEP5: 投票結果により要因を選定
→打開策共有

S1

組織・チームの文化

S2

業務管理

S3

改善対象・事象の選定

S4

現状分析

S5

改善すべき領域の特定

S6

改善手段決定

S7

改善計画立案

S8

改善実施

S9

改善実績評価
効果確認

S10

チームワーク

S11

メンバーのスキル

S12

その他